

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	147200515
法人名	特定非営利活動法人 優游の朋
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ菊名
訪問調査日	2018年10月11日
評価確定日	2018年12月21日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 30 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	142700515	事業の開始年月日	平成17年11月1日	
		指定年月日	平成17年11月1日	
法人名	特定非営利活動法人 優游の朋			
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ菊名			
所在地	(〒000-0002) 神奈川県三浦市南下浦町上宮田3490			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果 市町村受理日	平成30年12月26日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、ご長寿101歳から59歳の若年層まで幅広い年齢層の方がご利用されています。認知症であっても、年齢に関わらず安心して生活できることを最優先に考え、適切な見守りとお手伝いが行き届くようスタッフ一同心掛けています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成30年10月11日	評価機関 評価決定日	平成30年12月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、特定非営利活動法人優游の朋の経営です。同法人は、三浦市内グループホームを運営しています。ここ「グループホームひなたぼっこ菊名」は、民家2棟を改装してつなぎ合わせた木造2階建ての和風建築の建物で、入り口から玄関までのアプローチには夏みかんの木や季節野菜を栽培している畑もあります。敷地内には広い庭もあり、様々な木々等が植えられ、居間からは、四季折々の花や果樹を眺めることができる他、縁側からは自由に庭に出れるようになっているため、開放感のある快適な居住環境が提供されています。立地は、京浜急行「三浦海岸駅」からバスに乗り、2つ目の「琴音バス停」から徒歩5分の海岸近くの住宅地の一角に位置しているため、窓を開けると海風と共に潮の香りを感じることが出来る環境下にあります。

●事業所の運営理念として「①安心して生活できる生活環境の確保、②きめ細かな生活援助を提供、③利用者と家族の関係を深め、他の地域資源との連携」を掲げています。この運営理念の基、常に利用者が安心して生活できることを最優先に考え、適切な見守りと援助を心がけ支援に努めています。食事利用者にとっても楽しみの1つであることを踏まえ、開設当初から自前の献立と手作りの料理を提供することで、食事を楽しむことができるよう、毎日メニューや盛り付け方を工夫しながら提供しています。また、在籍年数が長く知識と経験豊富な職員が多くいることから、利用者や家族との信頼関係も構築され、安心して生活できる環境が確保されています。

●ケアについては、毎日の「生活日誌」で利用者の現状や細かな情報を職員間で共有する仕組みがあり、業務を通してケアのあり方、今後の取り組みなどを話し合い、質の高いケアを実現すべく取り組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ひなたぼっこ菊名
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	居間に運営理念を掲げており、ミーティング等で共有し、ご利用の生活を支える視点に大きく力を入れている。	3つの運営理念「①安心して生活できる生活環境の確保、②きめ細かな生活援助を提供、③利用者と家族の関係を深め、他の地域資源との連携」を居間入り口の目につく場所に掲示しています。職員の在籍も長く、管理者と職員は日常業務の中でケアについて話し合い、理念に沿ったケアの実践につなげています。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民祭りやラン伴ではご利用者と一緒に参加している。傾聴ボランティアの方に月1回事業所に来ていただいている。また、民生委員児童委員高齢者部会との交流会も行っている。	上宮田自治会に加入し、回覧などを通じて地域の情報をいただいています。月1回の地域清掃にも参加している他、散歩時には地域の方と挨拶を交わしています。また、市民祭りや「RUN伴」にも参加し、町内を超えた交流を図っています。月1回は傾聴ボランティアの来訪、民生委員高齢者部会から紙芝居や歌などのボランティアの来訪もあります。更に傾聴ボランティアの「実習生」の受入れも行っています。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でお伝えするレベルに留まっているのが現状。独自の活動として外部に発信するためにはマンパワーの確保が必要。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催ごとにホームでの出来事や状況を報告。地域貢献できるホームとしての役割について意見をいただき運営に役立っている。	運営推進会議は、地区民生委員・三浦市高齢福祉課職員・地域包括センター職員・利用者家族・管理者・法人理事長などの出席を得て、奇数月に開催しています。事業所の活動状況や行事報告に加え、今後の地域協力支援のお願いなども呼びかけています。民生委員からも地域行事の紹介等を受け、参加者の意見・提案などもサービス向上に活かしています。		今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センターと連携を図り、またグループホーム連絡会に出席し積極的に情報交換している。	三浦市高齢福祉課とは、運営推進会議への参加や日頃からの報告や相談などで密に連携をとり合っている他、生活保護受給者の受け入れを行っている関係で生活保護課の来訪もあります。市のグループホーム連絡会に出席して情報交換を行っています。また、三浦市立病院からの研修案内、地域包括支援センター・社協の来訪などもあります。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から身体拘束のないケアを実践している。法律で定められていることを正しく理解し周知徹底するための研修や勉強会を取り入れている。	年4回「身体拘束適正委員会」を開催し、具体的事例を基にした年2回以上の研修・勉強会を通して、法律で定められたことを正しく理解し、身体拘束のないケアを実践しています。併せて言葉遣いについても徹底した教育を行っています。門扉・玄関とも日中の施錠はせず、外出しようとする利用者については、見守りと寄り添いで対応しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については日頃から職員間で気をつけなければならないことで、どういう行動や言動が虐待につながってしまうのか研修のテーマとして取り上げ、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングを活用し権利擁護については学んでいるが、支援までには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分時間をかけて説明を行い、同意をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者及び利用者家族の意見を受け止めるよう心掛け運営に反映させている。	利用者の生活の様子・連絡事項などを記述した便りを家族に毎月送付し、家族の意見を聞くようにしています。運営推進会議や年1回のクリスマス会などの行事、月に1～2回来訪される利用者家族からも意見や要望を表せる機会を設けています。家族からの意見や要望があった際は、職員間で情報を共有し、話し合いで検討した後に反映させています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例ミーティング時に意見交換を行っている。日常的にも気が付いたときは、その都度意見を聞き反映している。	運営や業務に関することは、毎月の定例ミーティングで話し合い解決するようにしています。管理者は、開設当初から職員として勤務しており、職員とは良好な関係も構築できています。現場職員の意見を積極的に聞き、業務に反映させることで風通しの良い職場作りに努めています。法人理事長が毎回運営推進会議に参加するなど、職員の意見を聞く機会を設けています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り、処遇についてはその確保に努めているが、給与水準については介護業界全体としてのベースアップが図れなければ厳しい現状にある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量に応じた必要な外部研修へは可能な限り参加している。現場が一番の学びの場であり、OJTによる個別指導を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	連絡協議会で開催されるミーティングや研修を中心に活動している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御利用者に寄り添い、思いや願いを傾聴し状況の把握、理解に努め安心につなぐ支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望は丁寧に聴き、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の情報を基に必要な支援を見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御家族との関係にも配慮し共に支えていく関係を作っている。共に生活している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自由に面会できる環境にあり、本人と過ごしていただく時間を確保し、必要に応じて支援についての話し合いを持ち、本人を支えていく関係を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前の関係が途切れることのないよう、自由に電話や手紙、面会が行われている。 近所に買い物に行ったり、お墓参りにも出掛けている。	入居前に家族から馴染みの人や場所等について聞き取り、情報を収集しています。知人や友人が来訪した際は、家族に連絡して確認が取れた方のみ面会していただいています。手紙や電話については自由にやり取りしていただき、馴染みの人との関係が途切れないよう支援しています。また、馴染みの店に買い物に行ったり、家族と外食やお墓参りに出かけている方もいます。携帯電話を所持している方もおり、家族との会話を楽しんでいる方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員に気配りし、本人にとってより良い作るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も必要に応じて関わりを継続することになっている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や仕草、行動から個人の希望や思いを把握するようにしている。	入居時に利用者本人や家族から、これまでの暮らしぶりや生活歴をアセスメント表で提出していただいています。入居後は、利用者の日々の様子や表情、仕草、職員の気づきを個別記録に記入しています。また、月1回来訪している傾聴ボランティアの方からも情報を提供していただき、利用者の思いや意向の把握に努めています。食事、入浴、外出支援の中で、極力本人の希望を叶えられるように支援しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の利用者の生活歴や生活習慣等を把握してこれまでの暮らしとあまり変わらない様な生活環境を整えられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日の心身状態、意向等を記録や会話から把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の介護記録や日誌に基づき支援のモニタリングは日々行い、月一度開催するミーティングで状態変化、ケア方法について意見交換を行い、介護計画を作成している。	入居時は暫定のケアプランで1カ月程度様子を見ています。毎日の「生活日誌」や個別記録に基づき、変化のあった時はその都度モニタリングを行い、月1回のケアカンファレンスでケア方法を話し合っています。利用者のありのままを記述した「ICFでの情報シート」を作成し、介護計画に反映させています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の様子や介護者のケアについて個別記録に記入し、さらにICFを用いてより情報を具体化して情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族・本人からの要望に対しては、家族の協力と理解の下で可能な範囲で対応させていただくよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員高齢者部会との交流会や市の取り組みに、ボランティアをお受けすることで、ご利用者にあった楽しみが実現せきよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、本人、家族の希望を受け入れ、医療機関と連携を取りながら適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に協力医療機関について説明を行っていますが、利用者と家族の意向を尊重して主治医を決めていただくようにしています。現在は、3カ所の協力医療機関から月1回～2回の往診があります。一部の協力医からは24時間のオンコール体制を整えています。歯科医は週1回の往診と看護師も週1回利用者の健康管理に来てくれています。個人契約で訪問マッサージを利用している方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で利用者の心身の状態の変化に気付いたことを事業所の看護師や訪問看護師に伝えて相談し、個々の利用者が適切な医療や看護を受けられるにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関とは相談しあえる関係にあり、入院・早期退院等の検討をこれまでも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針の説明、話し合うと共に状況の変化に応じて家族と繰り返し話し合いを重ね、納得のいく方向にたどり着けるよう支援している。	入居時に「重度化した場合の指針」を説明し、同意書を取り交わしています。事業所では、家族の協力が得られることを前提としたうえで、医療行為を必要としない場合のみ、看取りを行う方針としています。終末期には家族・医師・看護師・事業所で話し合い、家族の意向に沿った支援に努めています。看取りの後には、デスクカンファレンスを開き職員の心のケアも行っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が応急手当、初期対応の訓練を受けている。現場の看護師から適宜アドバイスなどもある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難誘導方法等についてはスタッフ間で話し合いを行い、その対応方法についてはマニュアル化している。	利用者も参加して年2回、日中と夜間想定で避難訓練を実施し、1回は消防署の立会いで通報・消火訓練の指導を受けています。併せてAEDの訓練も行い、避難の手順をマニュアル化して台所に掲示しています。備蓄品は3日分の米、水、缶詰の他、カセットコンロ・衛生用品などを居間の押し入れに準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇のマナー研修やミーティングの中で繰り返し話し合い職員間で互いに気を付けあうようにしている。		利用者に対する接遇を含めたプライバシーの確保についての研修を、年間の研修計画の中で取り上げて実施しています。名前の呼び方は、名字に「さん」付けを基本とし、利用者の尊厳を損ねないよう礼儀正しい姿勢で接するよう職員に周知徹底しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや希望を傾聴して、意思を確認し自己決定を尊重している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその人らしい暮らしができるように個人のペースを大切にその日のやりたい事などの希望に添うように支援している。。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じておしゃれを楽しむことができるように支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや食べ方などを把握して食事を楽しむことができるようにメニューや盛り付けなどを工夫している。		開設当初から自前の献立と手作りの料理を提供することで、食事を楽しむことができるよう、毎日メニューや盛り付け方を工夫しながら提供しています。調理専門の職員が週6回の昼・夕食の料理を担当し、食材は注文したり利用者と一緒に買出しにも出かけています。庭の野菜畑の野菜も食卓に乗ります。行事食では出前の利用もあり、多様な食事内容になっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、季節の旬な物も取り入れ水分も状態に合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い見守りや介助で行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握して声かけするなどしてトイレで排泄する機会を増やして失敗を減らし、自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表を活用しながら、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めています。自立している方は見守りで対応し、必要な方には定時の声かけや、タイミングを見計らった誘導で、トイレでの自立排泄に向けた支援を行っています。便秘対策では、個々の状況に応じた予防に取り組んでいます。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し水分、食事量、を確認して便秘の要因を考え、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望や体調に合わせて、時間を決めず入浴を楽しんでもらえるように支援している。	入浴は週3回を基本に、午前・午後などの入浴時間を決めずに、利用者個々の要望に応じた柔軟な対応で入浴支援を行っています。必ずバイタルチェックを行い、季節に応じた菖蒲湯・ゆず湯等も取り入れながら気持ちよく入浴出来るよう工夫しています。また、同性介助や、足浴、シャワー浴などの個別対応に加え、入浴後の保温クリームを使用しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣やその時の状況に合わせてゆっくり休んでいただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が情報共有できるように個別ファイルに処方薬説明書を添付。また、服薬と症状の変化についてもモニタリングし、必要に応じ看護師、医師に相談している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性を生かし畑仕事や洗濯たたみ等支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やお墓参り、気分転換に短時間のドライブ等一人ひとりの希望に添って支援している。	海岸沿いに遊歩道があり、天候や利用者の体調を考慮して散歩する機会を作っています。縁側から庭に出てベンチに座り、四季折々の花や果樹、時々やってくる猫の姿を見ながら外気浴をしている方もいます。近くのスーパーや100円ショップ等への買い物支援も行っています。ドライブでは、景色のいい三浦海岸に行ったり、桜・菖蒲の花見見物にも出かけています。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や能力に応じて支援している。またご利用者の多くは、ご家族の希望により、当方管理が中心になっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な方との電話や手紙のやり取りを支援している。 携帯電話を持参している方もいます。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間から庭を見渡せるため季節に応じた野菜を育てたり、花を植えたりと、季節を楽しめる空間づくりをしている。	明るい共有空間の居間は、純和風の造りで床の間や縁側もある落ち着いた雰囲気になっています。居間から見渡せる庭には、季節に応じた野菜畑・夏ミカンの木・ブーゲンビリアの花などがあり、四季折々の花等も楽しむことができます。居間は食事スペースとテレビスペースを分けており、生活にメリハリをつけています。温度は最適になるよう職員が調整し快適さを確保しており、毎朝掃除をし清潔を保っています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを置き思い思いに過ごせるように配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	多くの方が使い慣れた馴染みのある家具や持ち物を使用され、本人と家族と協力して居心地よく過ごせるよう工夫している。	各居室は床が畳になっており、民家を改装した建物なので各居室の造りも異なっています。各居室には床の間・押入れ・障子がある純和風でエアコンが完備されています。入居時の生活環境の変化から入居者が不安や混乱を招くことのないように、使い慣れた家具や調度品を持ち込んでいただくように伝えていきます。タンス、仏壇、鏡台等の他、冬にはこたつを利用している方もいます。居室の清掃は利用者職員と一緒にいき清潔に保っています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常の生活を共にすることで出来ること、出来ないことを見極め出来ないことだけを支援している。また、必要に応じて案内を掲示するなどの工夫をしている。			

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
ひなたぼっこ菊名

作成日

2018年10月11日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	加齢に伴う身体機能の低下が著しい利用者に対し、都度、状況に応じた適切な対応が求められる中、スタッフにより知識と経験が異なることにより、提供するケアに差が生じている。	スタッフによる対応の違いをなくす。	経験豊かなスタッフと看護師を中心に、利用者個々の急変の可能性とそれに対する対応についての情報交換を密に行う。	平成31年3月
2	13	中堅スタッフの力量アップを図り、事業所の組織力の強化をすすめる。	管理者ならびにリーダーとしての心構えを身に着ける。	実践者研修と実践者リーダー研修へ参加し外部でしっかりとスキルアップを図る。	平成31年3月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。